

自主学習プログラム導入による教学効果に関する調査（中国語）

人文学部 玄幸子

Investigation about the educational effect by the introduction of self-teaching program (on Chinese)

Yukiko GEN (Faculty of Humanities)

For acquisition of a foreign language, it is most important to take repeated practice and memorize especially in a beginners' class stage. While carrying out monotonous repeated practice, it becomes important how to make students learn aggressively.

It is the main point of this paper to investigate what effect is expected by introducing the self-teaching computer program into lesson in order to induce positiveness of students.

Keywords : Chinese, computer, self-teaching program, positiveness of students

0 はじめに

外国語習得の過程でとりわけ初級段階においては言うまでもなく反復練習と暗記が重要である。そこで単調な反復練習に如何に積極的に取り組ませるかが教学上の重要なポイントとなる。コンピューター自主学習教材を授業に取り込むことで、学習者の学習に取り組む積極性を引き出す点でいかなる効果が期待できるかを調査することが今回の目的である。

1 使用教材について

使用した教材は、『ハイパー中国語 实用漢語課本』（林要三企画・監修、東方書店＋クリエイイト大阪）である。以下教材の概要を紹介する。

北京語言学院編『实用漢語課本 [日本語版]』（1,2巻、全 50 課）をデジタル化したマルチメディア教材であり、課文・新出単語・語法要点など全 2 冊にわたる大部なテキストのほぼすべてを文字・音声・画像で収録してある。課文は、音声のみ・文字表記・ピンイン（発音表記のための中国語式ローマ字）表記・文字ピンイン双表記のいずれの方式でも音声の再生ができる。全文を通しての再生のみならず、該当箇所をクリックすることで文単位・単語単位の再生も可能である。

また、練習問題が付され、新出単語の意味・音声の

確認、穴埋め式や単語並べ替え形式による語法事項の確認、置換練習による基本文型の習得、ロールプレイング形式の対話練習などができる。

練習問題で誤答をした場合、再々度までトライでき、最終的に点数表示がされ、自分自身の習得度を計り、誤った点を確認することができる。

1～11 課および復習課課文の「書き取り」練習ができ、全課の課文について「聞き取り」練習ができる。また、学習者は自分の声を録音してチェックすることもできる。

基づいたテキスト（書籍版）は、2 冊目以降（第 31 課～）ピンイン表記を併記しないので、学習者は単語の発音・意味を忘れた場合、再度既習の課を復習するか辞書を引かねばならないが、コンピューター教材の場合は文字・音声の両面から即時に確認できる。よって、読みこなす文章量を飛躍的に増やす効果が期待できる。

2 授業活用状況

授業における取り組みは、おおよそ以下の手順で進めた。まず、テキスト（書籍版）で新出単語を確認しながら遅い速度で正確に発音練習をクラス全体で行う。この間耳と口を動かしながら、コンピューターを使え

る状態にするための操作(1-1~1-5)を平行して行う。

- 1, 新出単語の発音練習とプログラムの立ち上げ
 - 1-1, コンピューターの電源を入れる
 - 1-2, pcr でログオン
 - 1-3, 「ハイパー中国語」を立ち上げる
 - 1-4, ユーザー名とパスワードを入力
 - 1-5, 学習画面に入る (約 15 分)

発音練習とコンピューターの操作を同時に行うことはできれば避けたいところであるが、プログラムの立ち上がりが非常に遅いためやむを得ない措置である。

全員の学習画面が立ち上がったのを確認の上、目的の課を提示させる。ここで、

- 2, 各自コンピューターを用いて、新出単語に関して発音練習・意味の確認・暗記を行わせる (15 分)。
- 3, ペーパーによる小テスト (15 分)
- 4, 教員による文法事項の説明 (10 分)
- 5, クラス全体での本文の朗読練習 (15 分)
- 6, 教員による本文の翻訳・解説 (10 分)
- 7, 各自のコンピューターによる総合確認

本文の聞き取りを3段階(1,ピンイン漢字
双表記 2,漢字表記のみ 3,音声のみ)で行
わせるなど。

或いは、本文が会話形式の場合は、LLのペア
練習機能によるペア練習など。(10分)

3 データー上にみる教学効果

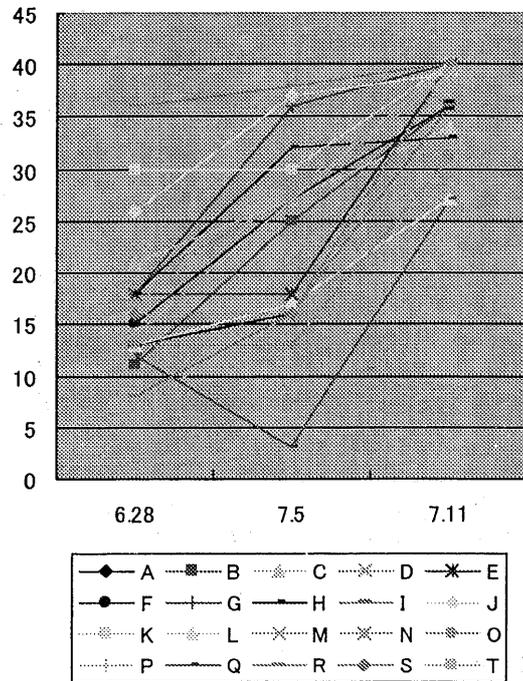
先に述べた授業活用状況は、あくまでも一例であり常時このように順調に授業が進められたわけではないことをお断りしておく必要がある。とりわけ、コンピューターの不調によりプログラムが立ち上がらないなどのアクシデントはほぼ毎時間起こったといっても過言ではない。アクシデントが起こった場合は、別の器機を使用することで解決した。

さて、最初にコンピューターの使用に関する習熟度と小テストの結果の関連性についてデーター上で確認してみたい。(参照 グラフ1)

比較する日時と平均点は以下の通りである。

6/28	42.5 (/100)
7/05	57.5 (/100)
7/11	85.0 (/100)

課によって、単語数の増減もあり単純に量れないところもあるが、全般に使用に慣れるに従って単語習得率も高くなっていることがわかる。

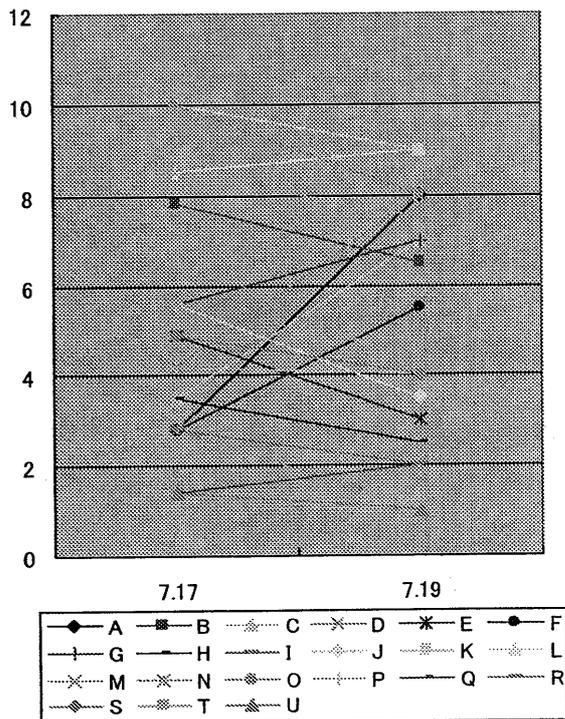


(グラフ 1)

グラフ1に示される結果のみならず、最後に付したアンケート結果を見ても分かるように器機使用法の習熟度に平行して学習者の意欲と単語習得率が高くなっている。翻っていえば、コンピューター教材導入においては、学習者に如何に速やかにコンピューターに慣らし使用させるようにするかという点が第1の重要なポイントとなる。近年、家庭や初等教育の場においてもコンピューターを使うケースが急増しているのだから、この点に関してはあまり心配をしていなかったのだが、今回初めてコンピューターを使う学生、或いは逆に、最新型のコンピューターに普段接しているため、旧バージョンの速度の遅いコンピューターの使用に慣れない学生という両極端の学生が混在しており、個別のアドバイスが必要とする複雑な状況であった。が、使用するプログラムが非常に単純なものなので、おずおずと取り組んでいた学生も2, 3度の使用で速やかに慣れることができたようである。

次にコンピューターを使用する授業と使用しない授業とを比べる。ただ、テストの集計結果に関しては、

小テストの実施方法における対象課の不一致・出題数の不一致などの点で厳密な比較とはなり得ないことにも注意する必要がある。この留意点を踏まえた上で、コンピューターを用いた授業の中で行われた小テスト結果とコンピューターを用いない教員のみによる通常授業での小テストの結果を比べてみよう。(参照グラフ 2)



(グラフ 2)

7/17 は通常授業中におこなわれ、7/19 はコンピューター使用の授業中に実施された。それぞれの平均値は、

7/17 5.0 (/10)

7/19 5.2 (/10)

で大差はない。

ただ、グラフを見て気がつくことは、A,C,D,F などのように、コンピューターを用いた授業での小テスト結果が急激な伸びをみせる一部の学生がいることである。このデータを見る限りにおいて、コンピューターを授業に取り入れることは、とりわけコンピューターを用いない授業時での低位層の学生に対して非常に有効であるといえよう。

4 まとめと今後の課題

ごくわずかなデータからのみ判断するのは早急にすぎるかも知れないが、後に添付したアンケート結果をみても、学習者のコンピューターを導入した授業への受け止め方は全般に肯定的である。さらに、発音習得上の利点、簡体字習得上の欠点など、コンピューター教材自体の利点欠点を学習者自身が感じ取っていることから、学習者自身が非常に真面目かつ積極的に取り組んだことがわかる。従来の授業では、なかなかやる気を起こせないまま期末試験に突入してしまう学生も見受けられるが、今回コンピューターを導入することで自分で学ぶという姿勢を得て、最悪の結果を免れた学生がいたことも特記できよう。今後色々な形で自主学习プログラムを授業に導入することは、教学上一定の効果があると言える。

自主学习プログラム上の欠点（簡体字の習得にはあまり効果がない、長時間の使用は眼が疲れる、相手を目前にしてのコミュニケーションの基本的姿勢が育たないなど）をケアしながら、どのように効果的に授業に導入するかが、今後さらに追求すべき課題である。

さて、最後に、導入にあたり強く感じたことを一言申し述べたい。今回、プログラムをコンピューターに組み入れる段階で様々な支障が起きたため、本来ならば、昨年度後期授業で取り入れる予定であったのを今年度前期にとりいれることとなった。具体的な状況を説明すれば、

- 1, 昨夏来のウイルスの猛威のためにサーバーへのプログラムインストールが昨年度後期開講に間に合わなかった。
- 2, プログラムをインストールするコンピューターに学習管理ソフト SW がインストールされており、SW上で管理することに不適合が見られたため、NT上で直接立ち上げる設定をする必要があった。
- 3, 録音機能が上手く作動しないため、マイクの接続を調整する必要があった
- 4, 導入予定から半年たつ間に本プログラムのバージョンアップが行われ、それに合わせて再インストールを行った結果プログラムが立ち上がらなくなったため、すべて旧バージョンに復旧する作業を行った。(現在に至るも原因を究明

できず)

さらに、本プログラムでは、ロールプレイングの練習ができるよう組み込まれているが、コンピューターに標準装備のサウンドボードが本プログラムに対応していないため、今年度夏期授業休暇中に交換作業が行われた。

以上は、プログラムを取り入れる教員の責任で当然やるべきだというご意見もあるかも知れない。が、語学教育のプロであっても、LL機器の操作さえおぼつかない教員がいるのも事実である。まして、プログラム導入のためのインストール作業など、プログラムを使用するための前段階の調整などは、できれば専門職員にお願いしたい。

今回のプログラム導入に関して、毎週毎週授業の合間を縫って業者と共に夜遅くまで不調の原因の分からないコンピューターと格闘しながら、機器の調整に時間と労力を教学の方法を研究するよりも何十倍もかけることに強い疑問を感じた。

今後の語学教育はLLはもとより、遠隔地授業などさらに高度なコンピューターを用いた授業の導入といった様々な可能性と広がりをもっている。本学においても、このような可能性を追求するならば、専門職員の配置などのプログラム導入条件の早急な改善を強く希望する。

付 アンケート紹介

以下は、ようやく授業でスムーズにコンピューターが使えるようになった中間時点(5/17)で集計したものと学期末(7/26)に実施したものを紹介している。

学期末に行ったアンケートでは、利点・欠点・感想の3点にまとめるように指示したが、分けていない回答もあり、その場合・・・で分けて、別項目に記すようにした。

A, 5月17日実施

空欄補充問題でどう答えても不正解になった。終了しようとしたとき、変な文章がでたのでコンピューターを強制終了しました。コンピューターの授業はとても楽しいです。

単語のピン音つけるのはけっこう難しいけど毎回やると力がつくと思います。

穴埋めもいいと思います。

トラブルは特になかったです。練習問題の単語は発音を覚えやすくていいと思いました。

パソコンになれていないため、思うように暗記できなかった。暗記するのに時間がかかるような気がします。エンジニアがあっているのに間違えとでました。パソコンを使うと発音がわかりやすくていいと思います。コンピューターは特に問題はありませんでした。練習問題のロールプレイングの使い方がよく分からないので教えてください。

ピンインと声調を入れた後ENTERキーを押しても画面がかわらないことが何回かあった。

特になし。当たっているはずなのにまちがうというのはたぶんピンインを入れ忘れたとか言う手のミスだと思う。

コンピューターを使って1人での練習は集中できてとってもためになると思う。

コンピューターを使って授業をするのはおもしろいし、やりやすいと思います。今日はピンインの入れ方に手間取ってしまったけれどその他は大丈夫でした。

ピンイン問題の書きとりが、特に難しいと感じました。ペンでの直書き練習も平行してやれたらいいのかもと思いました。

コンピューターは使いたいと思います。何回も同じフレーズを聞けるので、耳に残ってとてもいいです。

コンピューターはいろんな練習ができ良いのだけれど、眼が疲れてしまうし、先生の発音をまねる方が好きです。

自分のやりたいところを勉強できていいです。単語の発音を忘れてしまってもすぐに聞けてうれしいです。なかなか予習・復習ができなくて、つかえてしまうけれど、わかりやすい授業で覚えやすいです。だんだん内容が難しくなってきたので、授業についていけるようにしたいです。

dui4と何回入れてもダメでした。コンピューターを使うと大胆に発音ができたり、分からないところをすぐ調べられたりするので好きです。

B, 学期末アンケート (7月26日実施)

利点

各々のスピードで学習できる。

何回でも分からない所などが開けるし、練習問題もあって、それはすごくよかったけれど、・・・

じぶんのやりたい部分を自由にできるし、何度も繰り返し練習できるのでよい。また、ペアでの練習もためになった。

発音がすぐ聞けること。(先生にたずねることもできるが、時間的问题があります。)

耳の練習によいと思います。

とても面白かった。自分のペースでやれるのですごくやりやすかった。

発音の練習にすごく役に立ちました。発音を聞いて単語の意味をつかむのが早くなりました。後期も使えるといいなあと思います。

発音が聞けてよかったのですが、・・・

コンピューターを使つての学習はおもしろかったです。いまだに、コンピューターの女性の声が入る中でまわっています。

自分のペースで発音の確認などができるので便利だと思ひます。ピンインのチェックができるのもいいと思ひます。

自分の分からない音を何回でも聞くことができる。自分の進度に合わせて学習が進められる。

発音を何度も確かめられる点。単語練習ができる点。

分からない所や自分のやりたいことが集中してできてよかった。自分のペースでできるというのがとてもよかったです。

自分のペースで発音を確認できるのはとてもよいことだと思ひから、

自分の分からない音を聞きながら復習できる。

何回も復習できる

自分だけが分からない単語を簡単に調べられるし、発音も確認できるのがよい。

正確な発音を繰り返し聴けること。

マンツーマンになれるので音読に熱中できる。

確認したい音やピンインが簡単に確認できる。

発音が何度も聞けてよかった。分からないところも。

自分の分からない分野を集中的に学べる。L.L.を使う

ことで同級生の発音の上手な点とかを聞くことができ、ライバル心みたいなものが湧いた。また、ほかの人と分からない点を一対一で話し合うことができた。

欠点

メンテナンスが悪かったらしく、すぐにフリーズした。目が悪いので目がすぐに痛くなった。

目がとても疲れるし視力が下がってしまったので私はあまり好きではありません。

手本としての先生の声あまり聞くことができないのが欠点だと思ひ。

プログラムを使える状態にするまで時間がかかります。途中調子が悪くてプログラムが止まったりします。目が疲れます。

ただ、聞いているだけだと思ひず眠り込んでしまうことが少なからずあったので、コンピューターのかもしだす眠気に負けないようがんばらなくてはならない、と思ひました。

途中いろいろと問題があつて混乱してしまつたこともありましたが、もっと、コンピューターを使うことに慣れるくらいの時間がほしかつたなと思ひます。

時々故障して授業に支障をきたすことはあつたけれど、・・・

「簡体字を書く」ということができないので、簡体字がなかなか覚えられないところもありました。そこが少し欠点になっていると思ひます。

紙に書いて覚えるほうが好きなので、コンピューターを使つての単語練習はあまり向いていなかった。

たまに調子が悪くなる点、ちょこっと孤独。

でも、たまに壊れたり、ちょっと融通がきかないところがあつたのでそこが直るとうれしいです。

時々動かなくなつたり、練習問題でいくら正しい単語を入力しても正解にならなかつたりするのが欠点だが、・・・

よく止まるので困る。

たまにおかしくなる

よく動かなくなること

単語練習(手で書いて覚えたほうがいい)

遅いので時間がかかる。音質が悪い。絵が下手。

モニターがちらついた。立ち上がりが遅い。

うまく作動しなかった。

感想

いろいろな練習ができて楽しかったし集中できてよかったと思う。

コンピューターの絵は教科書のものとは比べて雑でした。

ペア練習が誰となるかドキドキして場合によっては非常に気まずい思いをするので嫌いでした。

コンピューターを使った授業はおもしろかったです。コンピューターを使ったペア練習などは楽しかったのので後期も続けて欲しいです。

こういう授業は必要だと思う。

コンピューターを授業に取り入れるのはとてもいいと思う。でも単語はコンピューターで練習しても覚えることができませんでした。

・・・の授業よりはるかに現代的だと思いました。

(かなり感動しました!)ただ、それまでの学習の仕方と異なるため要領よくうまく利用できていたかどうかまでは疑問です。扱い方そのものは特別難しくはないので問題ないのですが、個人学習の時間では、結構もてあましていた感があったので(個人的に)、もっと有効活用できたのではと悔いが残ります。“アテンダンスボタンを押して”——のペア練習はすごくよかったです。顔が見えないことはそれほど問題じゃなかったし、生きた会話練習を楽しめました。(頭にも残るし)

ヘッドホーンをつけて誰かとしゃべるのは新鮮で面白かった。

【附言】

本稿は教養教育実施委員会経費の配分を受けたプロジェクト「コンピューター用自主学习プログラム導入による教学効果に関する調査(中国語)」の報告である。